

## 第2学年1組 生活科学習指導案

### 1. 単元名 「うごく うごく わたしのおもちゃ」

### 2. 指導観

- 本学級の子どもは、2年生の生活科学習の年間計画を立てる際、「おもちゃが作りたい。」と本単元に取り組むことへの意欲を見せていた。昨年度、2年生に招待してもらった「おもちゃランド」で遊んだ経験が印象に残っており、必ずおもちゃづくりをしたいと思いを馳せていた。

伝え合うことに関しては、「あやめわくわくまちたんけん」の学習で、グループでの体験活動と表現活動を行いながら、自分の伝えたいことを自分なりの方法で表現したり、自分や友達の発表を受け、次の活動への思いや願いをもったりする子どもが多く見られた。しかし、自分の気付きと友達の気付きを比較したり、関係付けたりして、よりよいものにしようとする子どもは少なかった。

- 本単元は、学習指導要領の内容(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものである。本単元は、身近にある物や自然を利用しておもちゃをつくる過程で、「比べる」「繰り返す」「試す」などの活動から、動くおもちゃの面白さや不思議さに気付くとともに、みんなで遊びを楽しむことができるようにすることをねらいとしている。もっと動く(速く・高く・遠く等)ようにしたいという願いを持ち、そのためにどうしたらよいかを、自分のおもちゃで遊んだり、友達と考えを伝え合ったりしながら考え、自らの手で遊びを工夫していく。

### 3. 本単元における主体的・対話的で深い学び、学習評価の工夫

#### ① 試行錯誤や繰り返す活動を組み入れた学習展開の工夫

導入では、身近にある物を集めて「材料コーナー」をつくることで、材料集めの段階から主体的な活動をスタートすることができるようにする。それらを使ったおもちゃを数多くつくって遊ぶことでおもちゃづくりに関心を持ち、対象に主体的に関わることができるようにする。

工夫する活動では、つくった動くおもちゃを繰り返し試す場を設定し、自分のおもちゃを友達のもの比べて違いを伝え合ったり、競争したりする中で、よりよくするための工夫を考え、試行錯誤を繰り返すことができるようにする。また、カードに記録したことを友達に発信したり交流したりすることで、それを基に再び工夫をすることができるようにする。

単元の終末には、昨年の経験から「1年生を招待したい。」という思いを持つことが予想される。

1年生が楽しく遊ぶためのルールや場づくりを、何度も改良しながら行うことができるようにする。

#### ② 伝え合う活動の工夫

自分の工夫や気付きを伝え合いながら、よりよく動くためにおもちゃを「工夫する」活動、つくったおもちゃで遊んでみる「試す」活動、友達と「比べる」活動等を設定する。また、活動の終わりには全体で振り返りを行い、おもちゃづくりの活動を通しての考えの変化、真似したいこと、思いや願い、次時に取り組みたいこと等を伝え合うようにする。

活動中に気付きを書きたい子どももいるため、気付いたときにカードに自分の思いを記録することができるようにしておく。記録したカードは、グループごとに準備したボードに貼りつけて交流し合えるようにすることにより、コミュニケーションを容易にはかることができるようにする。

#### ③ 学習評価の工夫について

教師は、評価の視点をもとに個々の見取りを丁寧に行うとともに、活動時間以外にも子どもと対話をする中で、一人一人が持っている思いや願いを受け止めることができるようにする。それらを、個別支援表に記入し、つまずきに応じた支援に生かし、子どもの活動が充実するよう個別に言葉かけを行うようにする。また、カードを活用して、自己評価、相互評価を行うことで、お互いの活動のよさを価値づけ、自信を持って活動していくことができるようにする。

4. 特別な教育支援を要する子どもに対する指導上の工夫・手立て

困難さ	手立て	対象児童	番号
友達と伝え合ったり一緒に活動したりすることが困難	個別に声をかけたり、教師と一緒に活動したりしながら、交流することの楽しさを味わうことができるようにする。	A児 B児	①
自分なりに工夫することが困難	おもちゃの改良の際に、参考作品を見るように促したり、友達のおもちゃと比べる視点に気付くよう声かけをしたりして、活動のヒントにする。	A児 B児 C児	②
学習の振り返りの場面において学習内容の想起が困難	工夫したところに丸いシールを貼るようすることで自分の活動をふり返りやすいようにする。また、単元の学習経過を思い出しやすいように、学びの足跡として学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を活用するなどの配慮をする。	A児 C児	③

5. 単元の目標

生活への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近にある物を使って遊ぶ物をつくり、それを使って主体的に楽しく遊ぼうとする。</li> <li>○ 友達や招待した1年生と遊べるように、楽しみながら遊びを創り出そうとする。</li> </ul>
活動や体験についての 思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要な身近にある物を集め、動く仕組みや材料、形などに着目して、比べる、試す、つくり直すなど試行錯誤を繰り返しながら主体的に工夫しておもちゃをつくっている。</li> <li>○ 友達や1年生と楽しく遊ぶことができるように、遊びの場やルール、遊び方などを工夫したり、考えたりしている。</li> </ul>
身近な環境や自分についての 気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近にある物を利用して動くおもちゃをつくって遊べることに気付いている。</li> <li>○ 動くおもちゃの動きの面白さや不思議さに気付いている。</li> <li>○ 友達と一緒につくったり遊んだりする楽しさや、おもちゃを工夫できる自分や友達のよさに気付いている。</li> <li>○ つくったおもちゃで遊ぶ活動の中で、1年生に遊び方を伝えたり、心を通わせたりして、関わることの楽しさに気付いている。</li> </ul>

6. 指導計画と評価計画（総時数 14 時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ★ 特別な教育的支援を要する子どもへの 特に困難とされる場面での支援	評価規準及び評価方法
<p>1 身近なもので動くおもちゃをつくらう。 [4]</p> <p>(1) 身近にある物を素材にし、それらを動かして遊ぶ。 ①</p> <p>(2) 身近にある物の特性を生かして、自分のおもちゃをつくり、つくったおもちゃで友達と遊ぶ。 ③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的に活動できるように、身近にある物をたくさん準備するように声かけをし、材料コーナーを子どもと一緒につくるようにする。</li> <li>○ 集めた身近にある物の性質を活用し、動きに目を向けて遊ぶように指示する。</li> <li>○ 自分のおもちゃの作り方等を確認して動くおもちゃをつくることのできるように、材料やつくる工程、注意点、安全面の配慮などを適宜助言する。</li> <li>○ いろいろなおもちゃをつくる経験をした後、自分の動くおもちゃを何にするのか決定する場を設定する。</li> <li>○ 自分や友達のつくったおもちゃを比べ、よさに気付いたことを次時の活動に生かすことができるように、「発見」「もっと○○したい」「困った」こと等の振り返りをカードに記入し、交流する場を設定する。</li> </ul> <p>★ 手立て①</p>	<p>【関】 身近にある物を使って意欲的に遊んでいる。(発言・行動観察・振り返りカード)</p> <p>【思】 おもちゃに使われているものに気付き、自分がつくりたいものを考えている。(発言・行動観察・つくったおもちゃ・振り返りカード)</p> <p>【気】 身近にある物を利用してつくった「動くおもちゃ」で、友達と一緒に遊ぶ楽しさや自分や友達のおもちゃのよさに気付いている。(発言・行動観察・振り返りカード)</p>

<p>2 もっと工夫しよう。 [5]</p> <p>(1) 同じようなおもちゃをつくっている友達とグループを作り、もっとよく動くように、工夫しておもちゃをつくる。② ＜本時2／2＞</p> <p>(2) 学年で、自分たちがつくったおもちゃで遊ぶ。②</p> <p>(3) 自分たちのつくったおもちゃで遊んだことを振り返り、次の活動について話し合う。①</p>	<p>○ 本時で工夫したいことを見付けることができるように、前時の「発見」「もっと○○したい」「こまった」等を振り返るようにする。</p> <p>○ もっとよく動く方法を伝え合うことができるように、同じおもちゃのグループの友達と一緒に活動する工夫を行う。</p> <p>○ 試行錯誤しながら主体的におもちゃをつくることができるように、「つくるコーナー」と「試すコーナー」を設定する。</p> <p>◎ 試しながら友達のおもちゃと比べることができるように、作り方や動き方の違いを具体的に言葉で表現するよう助言する。</p> <p>★ 手立て①②③</p> <p>○ 学年で一緒に遊ぶことができるように、前半と後半に分かれて、おもちゃで遊ぶグループ分けをする。</p> <p>○ 気づきを全体に広げることができるように、ルールや遊び方の工夫が出てきたときには賞賛するようにする。</p> <p>○ 必要に応じて、おもちゃを改良してもよいことにする。</p> <p>★ 手立て①</p> <p>○ 自分や友達のおもちゃのよさを認め合うことができるように、伝え合う場を設定する。</p> <p>○ 活動の見通しを持つことができるように、1年生を招待しての「おもちゃランド」を開く計画を立てるようにする。</p> <p>★ 手立て③</p>	<p>【思】友達と情報交換をしたり、試したりしながら、おもちゃをよりよく動かすための材料や仕組みを工夫するなど、自分なりに改善点を考えている。(発言・行動観察・おもちゃ・振り返りカード)</p> <p>【思】楽しく遊ぶため、遊び方やルールを考えたり、おもちゃをつくりかえたりしている。(発言・行動観察・自分のおもちゃ・振り返りカード)</p> <p>【気】友達と一緒に遊ぶ楽しさや自分や友達のよさに気付いている。(発言・ルールの内容・看板等つくったもの・振り返りカード)</p>
<p>3 「あやめおもちゃランド」に、1年生を招待して、1年生といっしょに遊ぼう。[5]</p> <p>(1) 1年生と一緒に遊ぶための準備をする。②</p> <p>(2) 1年生と「おもちゃランド」で一緒に遊ぶ。②</p> <p>(3) 1年生を招待した「おもちゃランド」の学習を振り返り、話し合う。①</p>	<p>○ 「おもちゃランド」に1年生を招待して楽しく遊ぶための遊び方やルールについて考えることができるように、グループで考え、準備する場を設定する。</p> <p>○ 分かりやすくルールを説明したり、遊び方を紹介したりすることができるように、「おもちゃランド」に1年生を招待し、一緒に遊ぶ時間を設定する。</p> <p>★ 手立て①</p> <p>○ 自分や友達のよさ、自分と友達との違いに気付くことができるように、1年生と遊んだ「おもちゃランド」を振り返り、自分や友達の頑張りを認め合う場を設定する。</p> <p>★ 手立て③</p>	<p>【思】1年生と一緒に、楽しく遊ぶために、ルールや遊び方を工夫している。(発言・行動観察・おもちゃ・振り返りカード)</p> <p>【関】招待した1年生と進んでかかわろうとしている。(行動観察)</p> <p>【気】1年生と関わることの楽しさに気付いている。(発言・振り返りカード)</p> <p>【気】自分や友達のよさ、自分と友達との違いに気付いている。(発言・行動観察・振り返りカード)</p>









(1) 主眼

もっと動く(速く・高く・遠く等)ようにしたいという願いを持ち、自分のおもちゃで遊ぶ中で、繰り返し試したり、友達と伝え合ったりする活動を通して、よりよく動くおもちゃになるように考え、工夫することができるようにする。

(2) 準備 子ども…つくったおもちゃ など

教師…身近にある物, かるこ, リサイクルばさみ, テープ, パワーアップカードなど

(3) 展開

主な学習活動・内容	○指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(評価方法) ★特別な教育的支援を要する子どもへの特に困難とされる場面での支援ポイント
1 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。	○ 前時(1/2時)の活動から、もっとこうしたいと目指しているおもちゃについて想起することで、本時のめあてへとつなぐ。
めあて もっと, はやく とおく たかく よくうごくように 自分のおもちゃを 工夫しよう。	
<p>2 おもちゃがよりよく動くようにつくりかえ, 試し遊びをする。</p> <p> この前は, ゴムの数をたくさん増やしてみたけど, ぼくのうさぎは, あまり跳ばなかったよ。ゴムを少し減らしてみようかな。</p> <p> 風があたるところをふやしたら, 速く走る車になったよ。もう少し風があたるところを広げてみようかな。</p> <p> ○○くんのように, もっと遠くまでころがしたいな。どうやったらいいか, 聞いてみよう。</p> <p>3 工夫したことを伝え合う。</p> <p> ○○くんに車がはやくなる方法を聞いたたら, 風が当たるところをトレーでつくるといいと教えてくれたよ。ありがとう。</p> <p> ○○ちゃんのぴょんうさぎはすごく跳んでいたよ。ゴムの数に秘密があったんだ。</p>	<p>◎ 材料やつくり方, より自分の思いに沿った動きやつくりのおもちゃに工夫することができるように, 友達のおもちゃと比較してうまくいかないことについて伝え合ったり, 何度も試したりする場を設ける。</p> <p>○ 友達にアドバイスをもらったことや, 自分の工夫でうまくいったことなどを, 忘れずその時にその場で書くことができるように, 単元を通して活用しているカードと, カードを貼りつける各グループのボードを準備しておくようにする。</p> <p>○ 教師は, 気付きを高めることができるように, 個別の見取りを行い, つぶやきやよさを他の子どもに伝えるようにする。</p> <p>【安全への配慮】</p> <p>○ かるこ等, 危険を伴う道具は「道具コーナー」で使うようにするなど, 安全面の配慮をする。また, おもちゃをとばすときは, 周りに気をつけたり, 試す場所を限定したりするなど留意する。</p> <p>★ A・B・C児がおもちゃを改良できていないときには, 参考作品を見せたり, 友達のおもちゃと比べたりするように促す。</p> <p>○ 互いの工夫のよさを見つけ合うために, グループで伝え合う時間を設定する。</p> <p>○ 自分の気付きを確かなものにするように, 工夫したこと等について考えたことをパワーアップカードに書くようにする。</p> <p>★ A児・C児がどこを工夫したのか自分で説明しにくいときには, 前時と変わったところに丸いシールを貼って説明することができるようにする。また, 自分の思いをうまく伝えられないときには, 書いた内容を教師と一緒に読む等して思いを伝えることができるようにする。</p> <p>【思】よりよく動くおもちゃになるように考え, 工夫している。(発言, 行動観察, 作品分析)</p>
4 本時の活動を振り返り, 次時の学習の見通しをもつ。	○ 一人の気付きを全体に広げることができるように, 工夫したこと, 気付いたこと, 友達に教えてもらったことなどを学級全体で伝え合う場を設定する。
<p> ○○ちゃんに教えてもらって, ゴムの数を少し減らしたら, 一番高く跳びました。跳ばしてみようから, 見てください。</p> <p> ○○くんのように, 電池の大きさを変えると, 遠くまでトコトコ走るようになりました。</p> <p> ○○くんのように, 風があたるところを広くしたら, 前よりも速く走るようになりました。</p>	
○ 次時に対する意欲を高めることができるように, 学年全体で工夫したおもちゃを使って遊ぶことを予告する。	